

JIS

船用油タンク非常遮断弁

JIS F 7399 : 2002

(JMSA)

平成 14 年 5 月 7 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

主 務 大 臣：国土交通大臣 制定：昭和 38.3.1 改正：平成 14.5.7

官 報 公 示：平成 14.5.7

原 案 作 成 者：財団法人 日本船舶標準協会（〒171-0031 東京都豊島区目白 1 丁目 3-8 造船技術センタービル
TEL 03-3984-9051）

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会（部会長 杉浦 賢）



審議専門委員会：船舶技術専門委員会（委員長 有川 彰一）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は国土交通省海事局技術課〔〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2 丁目 1-3 TEL 03-5253-8111（代表）〕又は経済産業省産業技術環境局 標準課産業基盤標準化推進室〔〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1 TEL 03-3501-1511（代表）〕にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

船用油タンク非常遮断弁

正 誤 票

区分	位置	誤	正
	表紙 1, 表紙 4	(追加する。)	
本体	規格名称の左側	(追加する。)	

平成 14 年 10 月 8 日作成

白
紙

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、財団法人日本船舶標準協会(JMSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、国土交通大臣が改正した日本工業規格である。これによって、**JIS F 7399 : 1996** は改正され、この規格に置き換えられる。

目 次

	ページ
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 最高使用圧力	1
4. 種類	1
5. 構造, 形状及び寸法	2
6. 材料	2
7. 検査	2
7.1 一般検査	2
7.2 作動検査	2
7.3 ばね検査	2
8. 製品の呼び方	2
9. 表示	2
付図 1 ワイヤ式玉形弁—構造, 形状及び寸法	4
付図 2 空気式玉形弁—構造, 形状及び寸法	5
付図 3 ワイヤ式アングル弁—構造, 形状及び寸法	6
付図 4 空気式アングル弁—構造, 形状及び寸法	7
付図 5 材料	8
解説	12

船用油タンク非常遮断弁

Ship building—Oil tank emergency shut-off valves

- 1. 適用範囲** この規格は、船用燃料油タンク及び潤滑油タンク非常遮断弁（以下、遮断弁という。）について規定する。
- 2. 引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。
 - JIS B 0216 メートル台形ねじ
 - JIS B 1575 グリースニップル
 - JIS B 2238 鋼製管フランジ通則
 - JIS B 2240 銅合金製管フランジ通則
 - JIS B 2704 圧縮及び引張コイルばね—設計・性能試験方法
 - JIS F 0503 船舶機関部コイルばね
 - JIS F 7102 船舶機関部管系用ガスケット及びパッキン使用基準
 - JIS F 7400 船用弁及びコックの検査通則
 - JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材
 - JIS G 3505 軟鋼線材
 - JIS G 3522 ピアノ線
 - JIS G 4051 機械構造用炭素鋼鋼材
 - JIS G 4303 ステンレス鋼棒
 - JIS G 4801 ばね鋼鋼材
 - JIS G 5101 炭素鋼鋳鋼品
 - JIS G 5121 ステンレス鋼鋳鋼品
 - JIS G 5501 ねずみ鋳鉄品
 - JIS G 5502 球状黒鉛鋳鉄品
 - JIS H 3100 銅及び銅合金の板及び条
 - JIS H 3250 銅及び銅合金棒
 - JIS H 3260 銅及び銅合金線
 - JIS H 5120 銅及び銅合金鋳物
- 3. 最高使用圧力** 遮断弁の最高使用圧力は、0.1 MPa とする。
- 4. 種類** 遮断弁の種類は、弁箱の形状、レバーの取付け方向及び遮断方式によって、表 1 のとおりとする（付図 1～4 参照）。

表 1 遮断弁の種類

弁箱の形状	ワイヤ式	空気式
玉形弁	A ₁ W 形,A ₂ W 形	A ₁ A 形,A ₂ A 形
玉形弁 (弁箱出口下向き)	B ₁ W 形,B ₂ W 形	B ₁ A 形,B ₂ A 形
アングル弁	L ₁ W 形,L ₂ W 形	L ₁ A 形,L ₂ A 形

5. 構造, 形状及び寸法 遮断弁の構造, 形状及び寸法は, 付図 1~4 による。ただし, 出入口口径, 面間及びフランジの寸法以外は, 参考寸法とする。

タンクに接続する方向としては, 正流及び逆流のいずれでも許容する。また, 付図 2 及び付図 4 に示す空気式の遮断部の構造は一例とする。

6. 材料 遮断弁の材料は, 次による。

- a) 弁箱, ふた, 弁体, 弁座及び弁棒は, 付図 5 による。
- b) その他の材料は, 原則として付図 5 による。

7. 検査

7.1 一般検査 遮断弁の一般検査は, JIS F 7400 によって, 次の a)~e)について行う。

- a) 材料検査
- b) 外観検査
- c) 寸法検査
- d) 組立検査
- e) 耐圧検査 次の試験圧力で行う。
 - 1) 弁座水漏れ検査 タンク接続側から 0.2 MPa
 - 2) 弁箱水圧検査 0.7 MPa

7.2 作動検査 遮断弁の作動検査は, 弁の全開状態において弁箱に水を充満させ, レバーを引き上げて弁が閉鎖することを確認し, また, タンク接続側から 0.1 MPa の試験圧力を加えたとき異常があつてはならない。

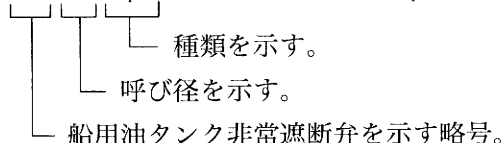
なお, 空気式の場合は, 0.3 MPa の圧縮空気をシリンダ内に投入し, ピストンが確実に作動することによって弁が閉鎖することを確認する。

7.3 ばね検査 遮断弁のばね検査は, JIS F 0503 又は JIS B 2704 による。

8. 製品の呼び方 遮断弁の呼び方は, 規格の名称若しくはその略号又は規格番号並びに呼び径及び種類による。

例 呼び径 25 で A₁W 形のもの

船用油タンク 25 非常遮断弁 A₁W 形若しくは FES 025 A₁W 又は JIS F 7399-25 A₁W



9. 表示

9.1 弁箱の表面に次の事項を表示する。

a) 呼び径

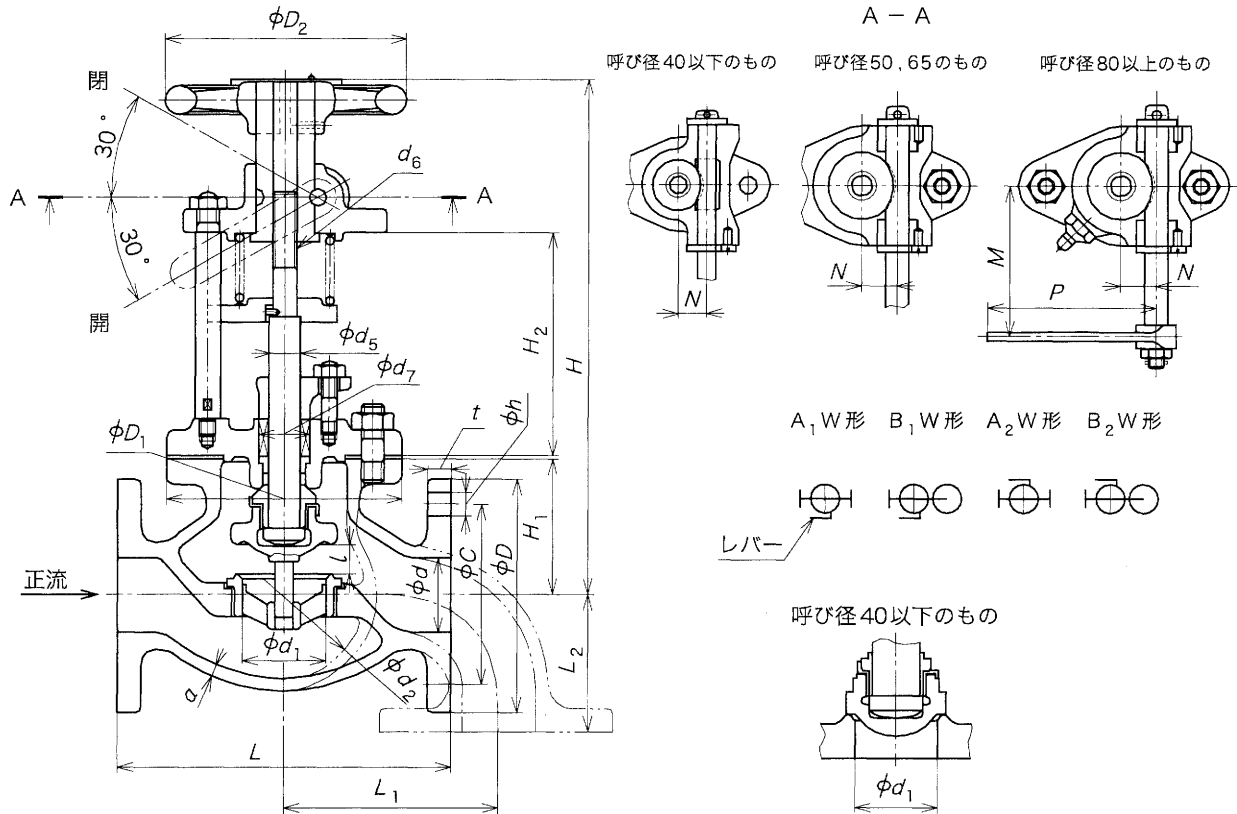
例 25

b) 流れ方向の矢印

c) 製造業者名又はその略号

d) 製造年又はその略号

9.2 フランジの外周に 10 K 又は 5 K の文字を刻印する。



出入口フランジのボルト穴は、弁箱の中心線振分けとする。

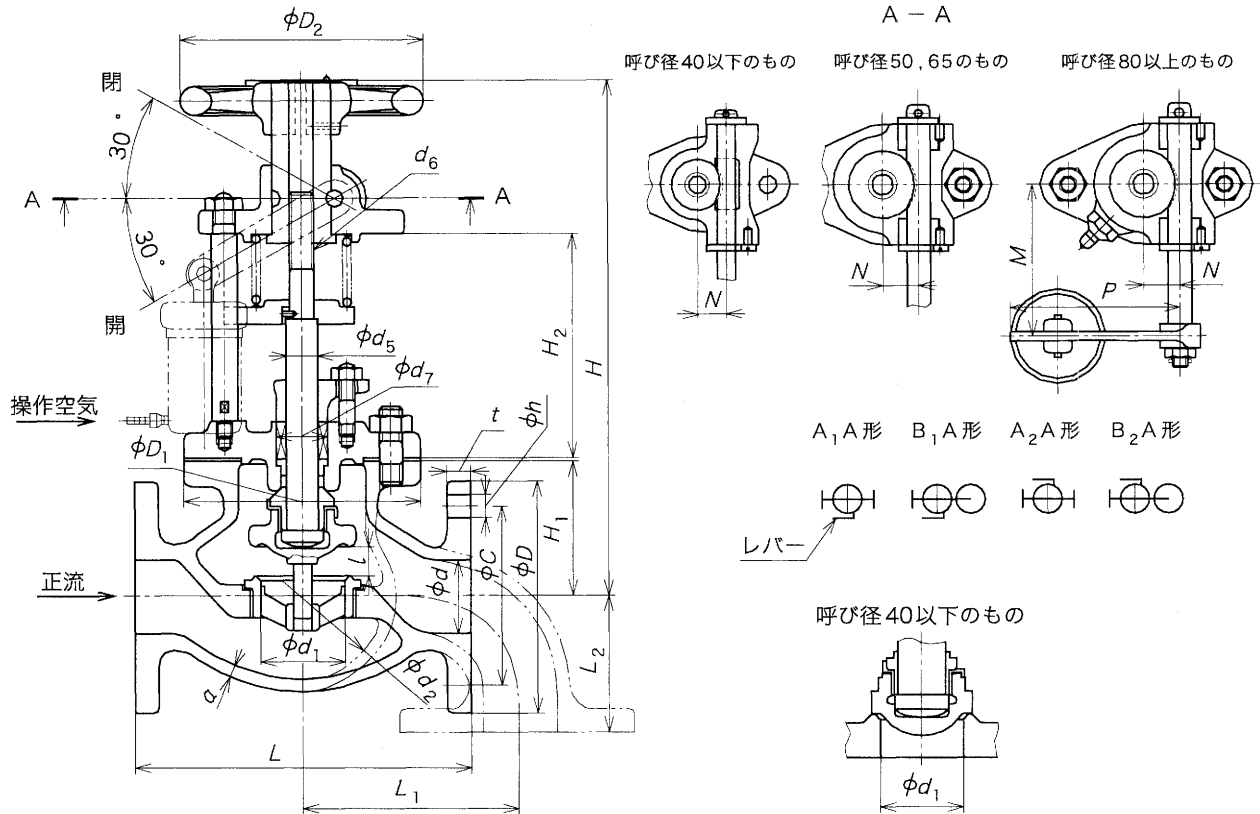
単位 mm

呼び径	フランジ															弁箱				弁棒		レバー長さ		参考			
	d	d_1	L	L_1	L_2	ボルト穴		ボルトのねじの呼び	t	全開高さ(約)	H_2	リフト	ハンドル車	D_1	d_2	a	H_1	d_3	ねじの呼び(左)	パッキン箱	M	N	P	計算質量(kg)			
						中心円の径	数																	A_1 W形	B_1 W形		
25	25	30	130	80	65	125	90	4	19	M16	14	265	122	8	120	90	55	4	70	18	Tr12x3 (又は Tr12x2)	28	70	13	100	8.5	8.8
40	40	45	170	85	80	140	105	4	19	M16	16	310	147	17	140	120	82	5	80	20	Tr14x3	32	92.5	18	110	12.7	13.0
50	50	58	220	125	90	155	120	4	19	M16	16	335	143	17	160	155	110	8	90	20	Tr16x4	32	99	21	110	20.9	21.8
65	65	73	270	155	100	175	140	4	19	M16	18	395	181	22	180	175	135	9	100	22	Tr16x4	36	124.5	23	120	30.5	32.1
80	80	88	300	165	120	185	150	8	19	M16	18	420	191	27	180	190	160	9	105	22	Tr18x4	36	131.5	25	160	35.4	37.5
100	100	111	350	200	130	210	175	8	19	M16	18	510	248	33	224	215	195	11	125	26	Tr22x5	42	151.5	28.5	190	55.6	59.2

備考 1. フランジは、呼び径 40 以下のものは、JIS B 2240 の呼び圧力 10 K、呼び径 50 以上のものは JIS B 2238 の呼び圧力 10 K による。ただし、注文者の指定によって JIS B 2240 の呼び圧力 5 K 又は、JIS B 2238 の呼び圧力 5 K によってもよい。

2. d_6 部のねじは、JIS B 0216 による。

付図 1 ワイヤ式玉形弁—構造、形状及び寸法



出入口フランジのボルト穴は、弁箱の中心線振分けとする。

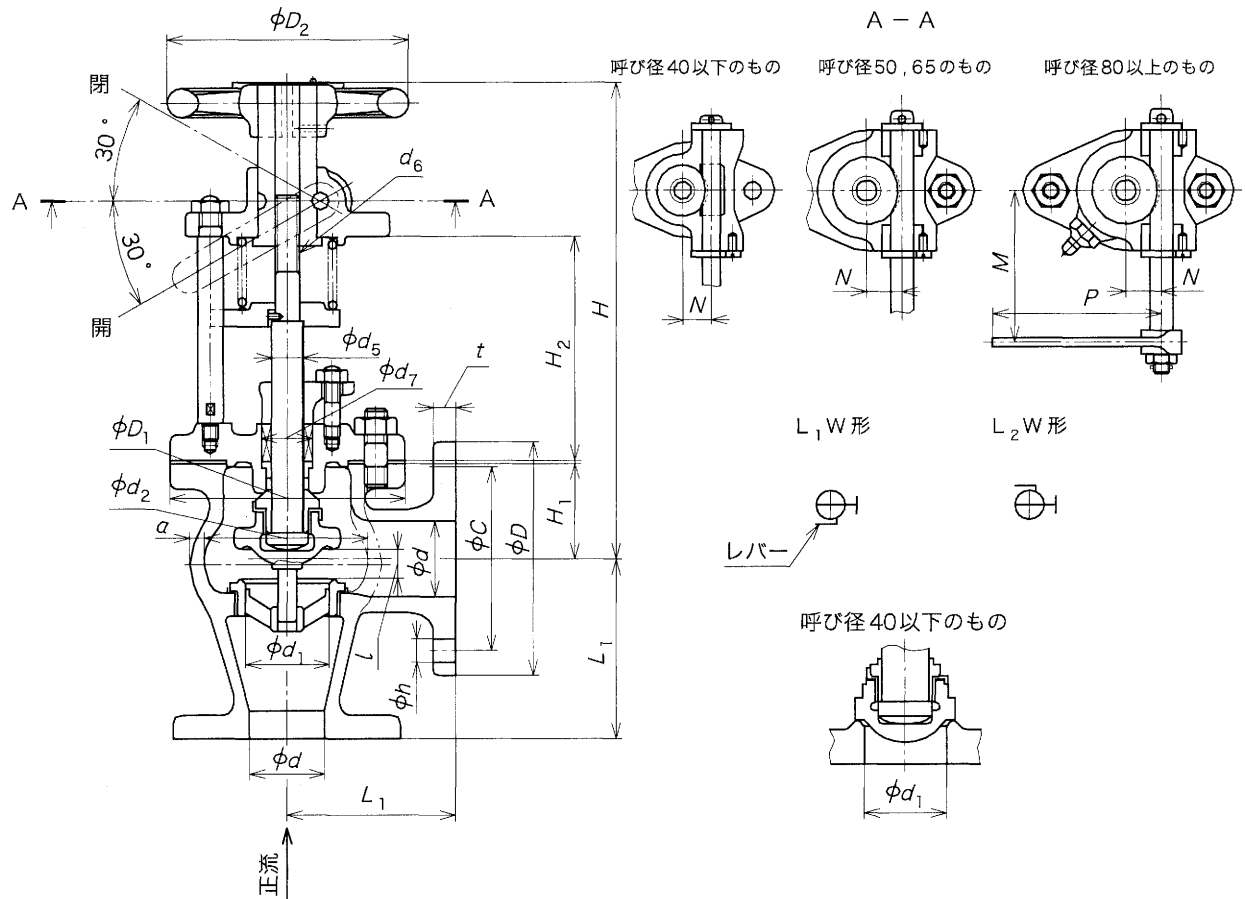
単位 mm

呼び径	フランジ											弁箱				弁棒		バッキン箱		レバー長さ		参考							
	d	d ₁	L	L ₁	L ₂	ボルト穴			ボルトのねじの呼び	t	全開高さ(約)	H	H ₂	リフト	ハンドル車	D ₂	D ₁	d ₂	a	H ₁	d ₅	ねじの呼び(左)	d ₆	d ₇	M	N	P	計算質量(kg)	
						中心円の径	数	h																				A ₁ W形	B ₁ W形
25	25	30	130	80	65	125	90	4	19	M16	14	265	122	8	120	90	55	4	70	18	Tr12x3 (又は Tr12x2)	28	70	13	100	9.5	9.8		
40	40	45	170	85	80	140	105	4	19	M16	16	310	147	17	140	120	82	5	80	20	Tr14x3	32	92.5	18	110	13.7	14.0		
50	50	58	220	125	90	155	120	4	19	M16	16	335	143	17	160	155	110	8	90	20	Tr16x4	32	99	21	110	23.0	23.9		
65	65	73	270	155	100	175	140	4	19	M16	18	395	181	22	180	175	135	9	100	22	Tr16x4	36	124.5	23	120	32.8	34.4		
80	80	88	300	165	120	185	150	8	19	M16	18	420	191	27	180	190	160	9	105	22	Tr18x4	36	131.5	25	160	38.1	40.2		
100	100	111	350	200	130	210	175	8	19	M16	18	510	248	33	224	215	195	11	125	26	Tr22x5	42	151.5	28.5	190	58.8	62.4		

備考 1. フランジは、呼び径 40 以下のものは、JIS B 2240 の呼び圧力 10 K、呼び径 50 以上のものは JIS B 2238 の呼び圧力 10 K による。ただし、注文者の指定によって JIS B 2240 の呼び圧力 5 K 又は JIS B 2238 の呼び圧力 5 K によってもよい。

2. d₆部のねじは、JIS B 0216 による。

付図 2 空気式玉形弁—構造、形状及び寸法



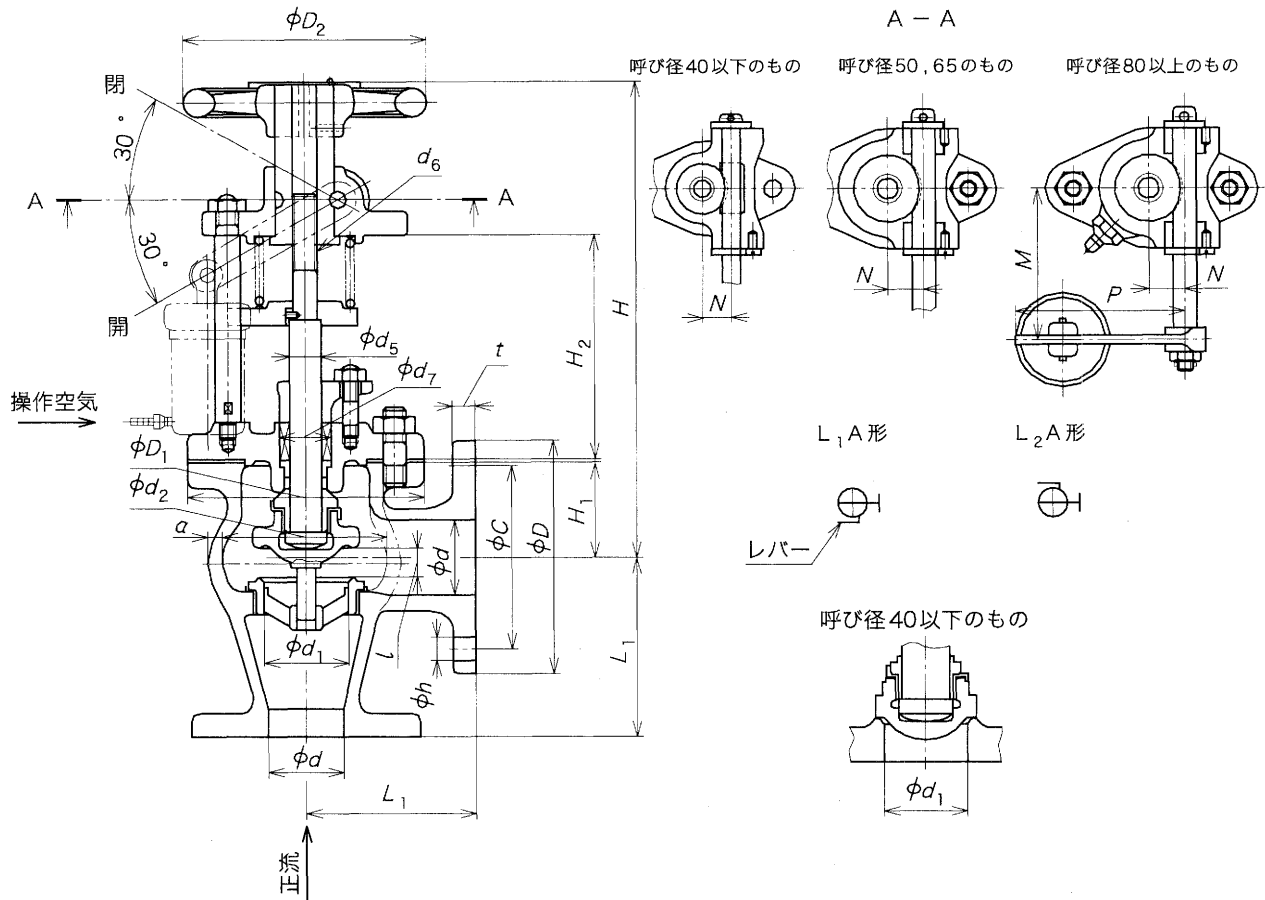
出入口フランジのボルト穴は、弁箱の中心線振分けとする。

単位 mm

呼び径	フランジ										弁箱				弁棒		レバー長さ	参考						
	d	d ₁	L ₁	ボルト穴		ボルトの呼び	t	全開高さ(約)	H ₂	リフト	ハンドル車	D ₁	d ₂	a	H ₁	d ₅		ねじの呼び(左)	パッキン箱	M	N	P	計算質量(kg)	
				中心の径	数																			h
25	25	30	70	125	90	4	19	M16	14	250	122	8	120	90	55	4	55	18	Tr12x3 (又は Tr12x2)	28	70	13	100	8.4
40	40	45	90	140	105	4	19	M16	16	285	147	17	140	120	82	5	56	20	Tr14x3	32	92.5	18	110	12.2
50	50	58	120	155	120	4	19	M16	16	305	143	17	160	155	110	8	60	20	Tr16x4	32	99	21	110	18.9
65	65	73	130	175	140	4	19	M16	18	355	181	22	180	175	135	9	60	22	Tr16x4	36	124.5	23	120	26.5
80	80	88	140	185	150	8	19	M16	18	375	191	27	180	190	160	9	60	22	Tr18x4	36	131.5	25	160	30.4
100	100	111	160	210	175	8	19	M16	18	455	248	33	224	215	195	11	70	26	Tr22x5	42	151.5	28.5	190	46.6

- 備考 1. フランジは、呼び径 40 以下のものは、JIS B 2240 の呼び圧力 10 K、呼び径 50 以上のものは JIS B 2238 の呼び圧力 10 K による。ただし、注文者の指定によって JIS B 2240 の呼び圧力 5 K 又は JIS B 2238 の呼び圧力 5 K によってもよい。
2. d₆部のねじは、JIS B 0216 による。

付図 3 ワイヤ式アングル弁—構造、形状及び寸法



出入口フランジのボルト穴は、弁箱の中心線振分けとする。

単位 mm

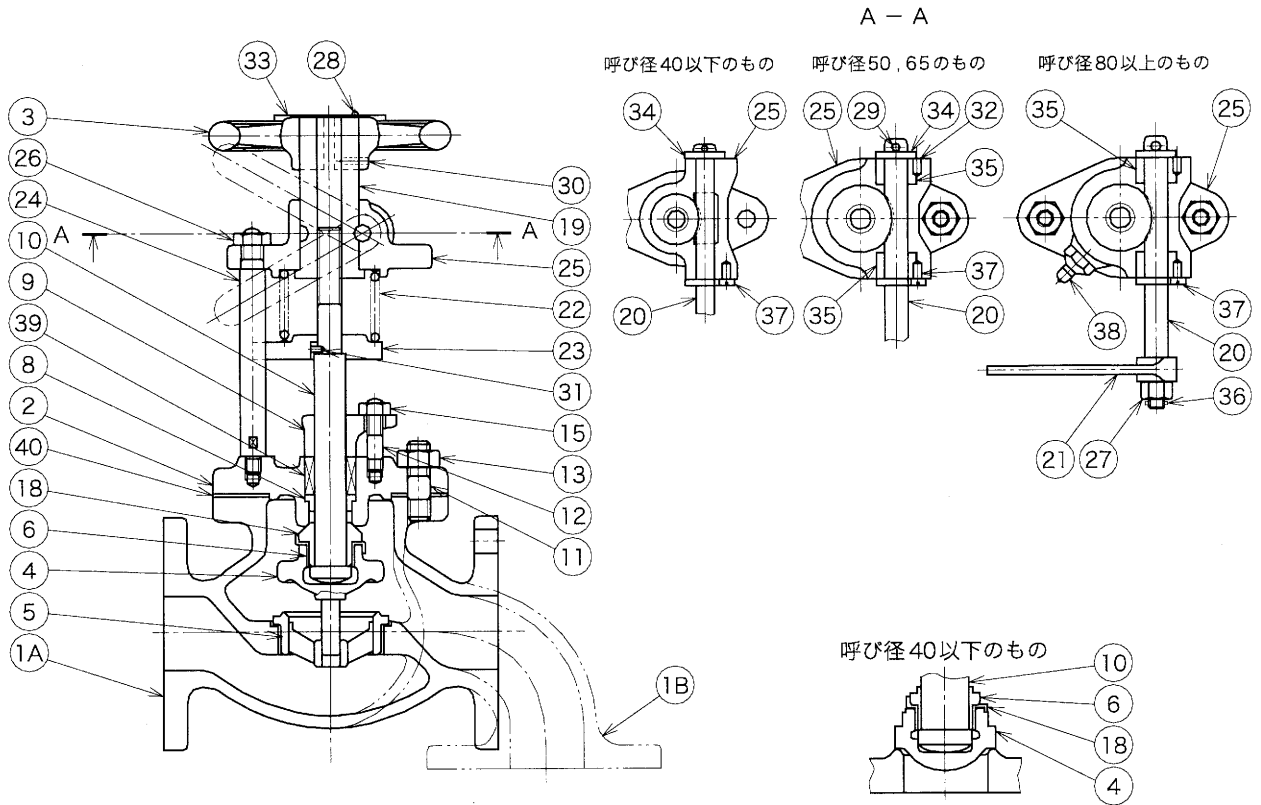
呼び径	フランジ											弁箱				弁棒			レバー長さ P	参考 計算質量 (kg) L ₁ A形 L ₂ A形				
	d	d ₁	L ₁	ボルト穴		全開高さ(約) H	H ₂	リフト l	ハンドル車 D ₂	D ₁	d ₂	a	H ₁	d ₂	ねじの呼び (左)	パッキン箱 d ₇	M	N						
				中心の径 C	数 h																ボルト のねじ の呼び t			
25	25	30	70	125	90	4	19	M16	14	250	122	8	120	90	55	4	55	18	Tr12x3 (又は Tr12x2)	28	70	13	100	9.4
40	40	45	90	140	105	4	19	M16	16	285	147	17	140	120	82	5	56	20	Tr14x3	32	92.5	18	110	13.2
50	50	58	120	155	120	4	19	M16	16	305	143	17	160	155	110	8	60	20	Tr16x4	32	99	21	110	21.0
65	65	73	130	175	140	4	19	M16	18	355	181	22	180	175	135	9	60	22	Tr16x4	36	124.5	23	120	28.8
80	80	88	140	185	150	8	19	M16	18	375	191	27	180	190	160	9	60	22	Tr18x4	36	131.5	25	160	33.1
100	100	111	160	210	175	8	19	M16	18	455	248	33	224	215	195	11	70	26	Tr22x5	42	151.5	28.5	190	49.8

備考 1. フランジは、呼び径 40 以下のものは、JIS B 2240 の呼び圧力 10 K、呼び径 50 以上のものは JIS B 2238 の呼び圧力 10 K による。ただし、注文者の指定によって JIS B 2240 の呼び圧力 5 K 又は JIS B 2238 の呼び圧力 5 K によってもよい。

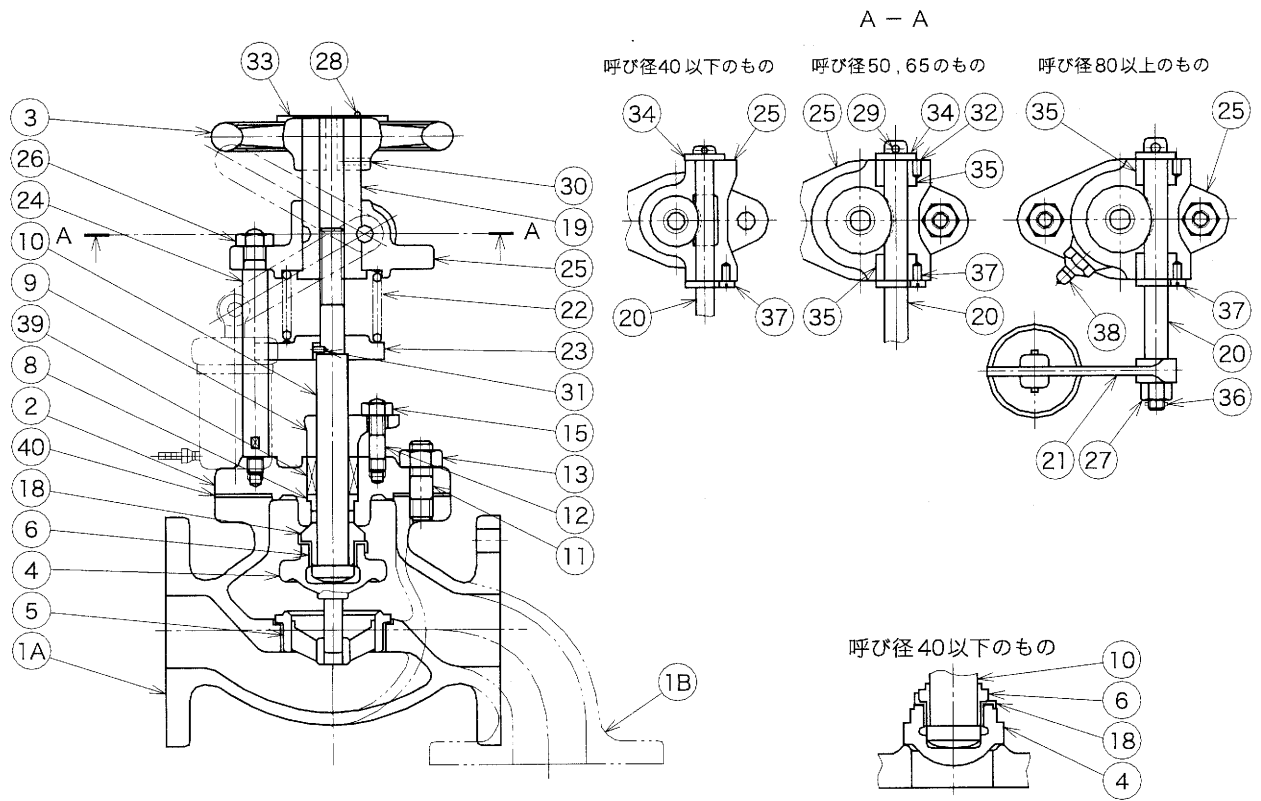
2. d₆部のねじは、JIS B 0216 による。

付図 4 空気式アングル弁—構造、形状及び寸法

A₁W形, A₂W形, B₁W形, B₂W形



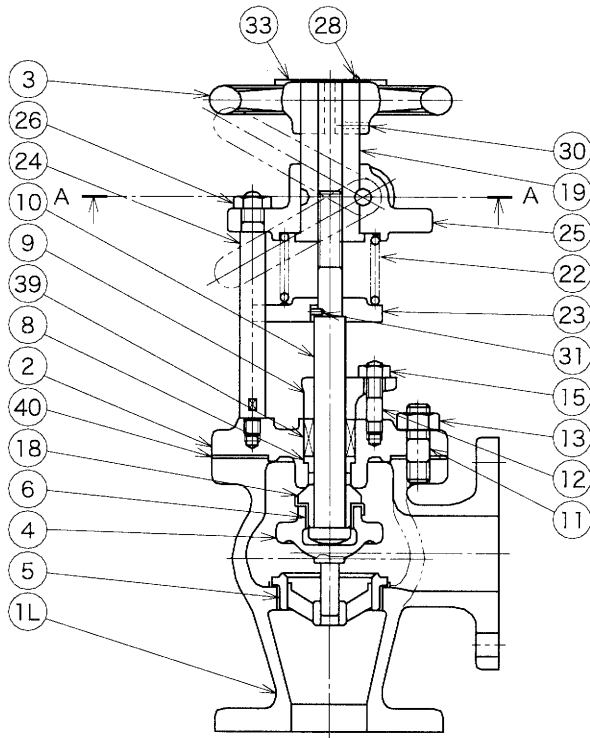
A₁A形, A₂A形, B₁A形, B₂A形



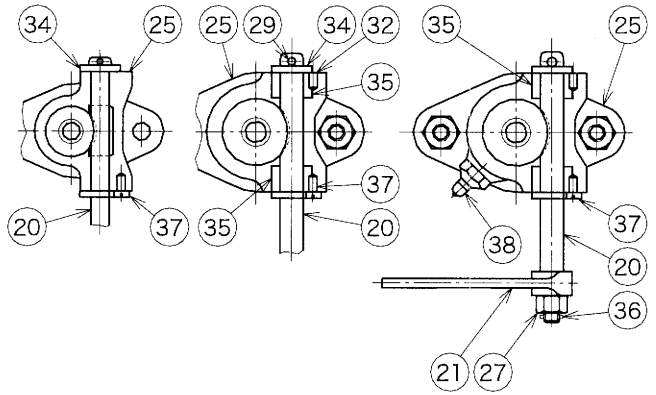
付図5 材料

L₁W形, L₂W形

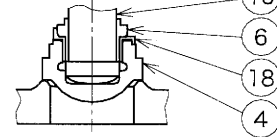
A - A



呼び径40以下のもの 呼び径50, 65のもの 呼び径80以上のもの

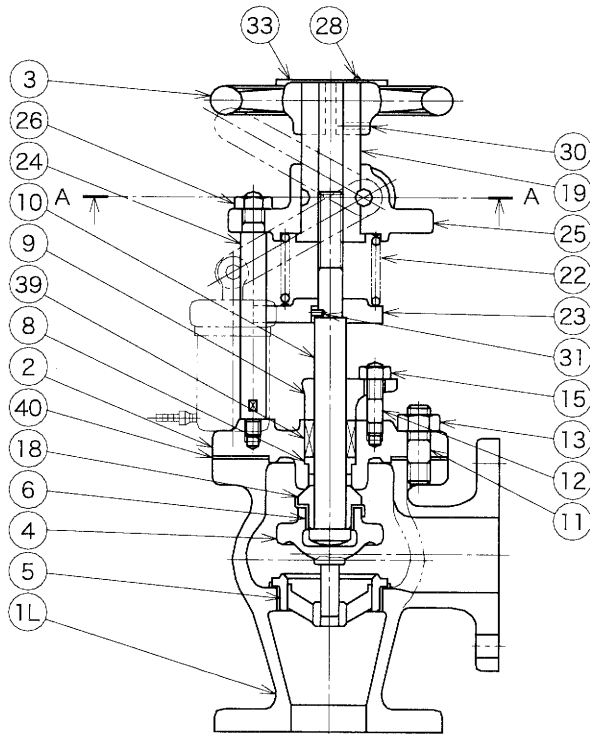


呼び径40以下のもの

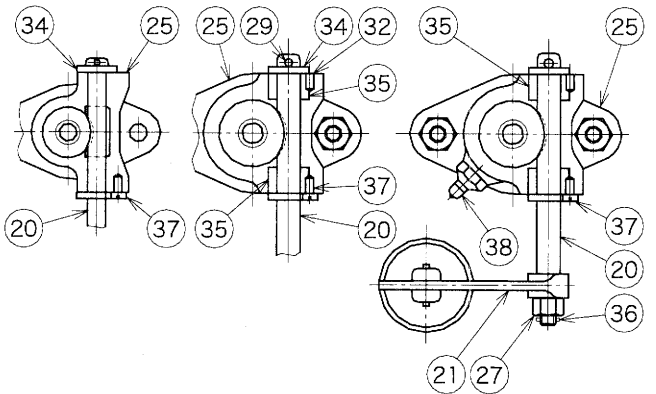


L₁A形, L₂A形

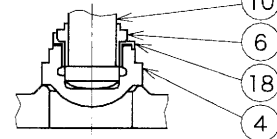
A - A



呼び径40以下のもの 呼び径50, 65のもの 呼び径80以上のもの



呼び径40以下のもの



付図5 材料 (続き)

部品番号	部品名称	材 料		
		呼び径 40 以下のもの	呼び径 50, 65 のもの	呼び径 80 以上のもの
1A,1B 1L	弁箱(A形,B形 及びL形)	JIS H 5120 の CAC406	JIS G 5101 の SC450 又は JIS G 5502 の FCD400-15	
2	ふた		JIS G 5101 の SC450, JIS G 4051 の S25C 又は JIS G 5502 の FCD400-15	
3	ハンドル車	JIS G 5501 の F C 200		
4	弁体	JIS H 5120 の CAC406	JIS G 5121 の SCS 2	
5	弁座	—		
6	弁押さえ	JIS H 5120 の CAC406 又は JIS H 3250 の C 3771 BD	JIS G 4303 の SUS 304	
8	パッキン受輪	—	JIS H 5120 の CAC406 又は JIS H 3250 の C 3771 BD	
9	パッキン押さえ	JIS H 5120 の CAC406		
10	弁棒	JIS H 3250 の C 3771 BE 又は C 3771 BD	JIS G 4303 の SUS 403	
11	植込ボルト	JIS G 3101 の SS 400		
12	植込ボルト			
13	六角ナット			
15	六角ナット	JIS H 3250 の C 3771 BD		
18	弁付回り止め	JIS H 3100 の C 2600 P	JIS G 4303 の SUS 304	
19	引上げ金物	JIS H 3250 の C3771 BD		
20	作動軸	JIS G 4303 の SUS 403		
21	レバー	JIS G 3101 の SS 400		
22	ばね	JIS G 3522 の SWP-A	JIS G 4801 の SUP 6	
23	ばね受	JIS G 3101 の SS 400		
24	支柱			
25	弁棒支持金物	JIS H 5120 の CAC406	JIS G 5101 の SC 450 又は JIS G 4051 の S 25 C	
26	六角ナット	JIS G 3101 の SS 400		
27	六角ナット			
28	十字穴付なべ小ねじ	JIS H 3260 の C 2700W		
29	割りピン	JIS G 3505 の SWRM 10		
30	十字穴付皿小ねじ	JIS H 3260 の C 2700 W		
31	止めピン	JIS G 3101 の SS 400		
32	止めねじ	—	JIS G 3101 の SS 400	
33	文字板	JIS H 3100 の C 2801 P		
34	座金	JIS G 3101 の SS 400		
35	ブシュ	—	JIS H 3250 の C 3771 BD	
36	割りピン	JIS G 3505 の SWRM 10		
37	止めねじ	JIS G 3101 の SS 400		
38	グリースニップル	—	JIS B 1575 の規定による。	
39	パッキン	JIS F 7102 の規定による。		
40	ガスケット			
41	ピストン	JIS H 5120 の CAC406		
42	シリンダカバー	JIS H 5120 の CAC406		
43	シリンダ			

付図5 材料 (続き)

- 備考 1.** 部品名称で太字のものの材料は、6.a)に規定する材料を示す。
2. ステンレス鋼相互の接触面は、焼付き防止のため表面処理などによって適切な硬さの差をもたせる。

付図 5 材料 (続き)

参考表 1 ばねの指定事項

単位 mm

呼び径	材料の径	コイルの 平均直径	有効巻数	巻方向	自由長さ	長さ		たわみ		荷重 N		密着試験 荷重 N
						全閉時	全開時	全閉時	全開時	全閉時	全開時	
25	4	35.5	6.5	右	85.5	65.5	57	20	28.5	180	257	482
40	5.5	50	6.5	右	96.5	68.5	54	28	42.5	323	490	605
50	6	60	6	右	102.5	62.5	44.5	40	58	480	696	762
65	8	70	6	右	120	90	67	30	53	597	1 055	1 194
80	9	75	6	右	138	107	79	31	59	804	1 529	1 827
100	12	90	8	右	193	158	124	35	69	1 183	2 353	2 694

備考 参考表 1 の数値は、逆流の場合及び使用するパッキンの種類によって異なる。

JIS F 7399 : 2002

船用油タンク非常遮断弁

解 説

この解説は、本体に規定した事柄、及びこれに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

この解説は、財団法人日本規格協会が編集・発行するものであり、この解説に関する問い合わせは財団法人日本規格協会にご連絡ください。

1. 制定の目的 船用油タンク非常遮断弁は、従来一定の形式がなく、使用上不都合が生じており、統一標準化の要望があったので、この規格が制定された。

2. 制定・改正の経過及び改正の要旨

2.1 制定・改正の経過

制定・改正	原案作成団体又は会社	原案担当作業委員会	日本工業標準調査会 審議専門委員会	制定・改正年月日
1963年制定	—	社団法人日本造船研究協会	船用低圧弁専門委員会	昭和38年3月1日
(経過は省略)				
1989年改正	財団法人日本船舶標準協会	財団法人日本船舶標準協会 機関部配管ぎ装品委員会 (委員長 江口嘉昌)	船舶部会 (専門委員会の審議は省略)	平成元年6月15日
1996年改正	同上	—	同上	平成8年11月8日
2002年 今回改正	尾道造船株式会社	財団法人日本船舶標準協会 機関部配管ぎ装品専門分科会 (専門分科会長 猪野義隆)	船舶技術専門委員会	平成14年5月7日

2.2 改正の趣旨

2.2.1 1989年改正 単位及び数値を国際単位系(SI)とし、{ } を付けて従来単位及び数値を併記した。

なお、SIの導入(第2段階)に当たっては、フランジ、継手など他の配管系機器 JIS との整合を図るため、換算値方式を採用し、かつ、{ } 内の数値は規格値とした。ただし、その期間は、SIが第3段階へ移行するなど前記整合の理由が解消されるまでの間とする。

2.2.2 1996年改正 SI単位の第3段階移行によって、{ } 内の数値と単位を削除した。新数値の採用によって規定値が従来単位換算値より2%増加された。呼び圧力は従来どおりの呼びを採用した。

2.2.3 2002年(今回)改正 主な改正点は、次のとおりである。

- a) 遮断弁の種類として、アングル弁及び空気式遮断方式を追加して合計12種類とした。
- b) 呼び径50以上の弁箱及びふたの材料に JIS G 5502 の FCD 400-15 を追加した。
- c) 寸法については、使用材料によって一律に規定できないので、出入口口径、面間及びフランジ寸法以外は参考寸法とした。
- d) 逆流式については使用実績が多いこと、また、将来最高使用圧力を高めることも考慮して規格に追加

した。

- e) 潤滑油系に対しても問題なく使用できるので、適用範囲の中に潤滑油タンクを追加した。したがって、規格の名称を“船用油タンク非常遮断弁”に変更した。

3. 原案担当作成作業委員会の構成表 原案作成作業委員会の構成表を次に示す。

JIS F 7399 (船用油タンク非常遮断弁) 改正原案作成委員会 構成表

	氏名	所 属
(専門分科会長)	猪 野 義 隆	日立造船株式会社
(委員)	島 田 毅	財団法人日本海事協会
	伊 飼 通 明	国土交通省船舶技術研究所大阪支所
	西 岡 弘	石川島播磨重工業株式会社
	花 崎 襄	川崎重工業株式会社
	佐 藤 博 美	日立造船株式会社
	山 口 博 美	三井造船株式会社
	林 洋一郎	三菱重工業株式会社
	藤 川 繁 徳	日本鋼管株式会社
	表 田 稔	尾道造船株式会社
	八 木 秀 明	南日本造船株式会社
	西 田 郁	大阪バルブ株式会社
	岸 上 勝 信	岸上バルブ株式会社
	大 塚 元治郎	岸上バルブ株式会社
	秋 吉 善 成	株式会社鷹取製作所
	辰 巳 国 広	巴バルブ株式会社
	町 野 孝 義	株式会社中北製作所
	岡 一 嘉	日の本辨工業株式会社
	三 輪 英 雄	三元バルブ製造株式会社
	西 岡 成 憲	水野ストレーナー工業株式会社
(事務局)	仁 平 一 幸	財団法人日本船舶標準協会

白 紙

★内容についてのお問い合わせは、標準部標準調査課へ FAX [FAX(03)3405-5541 TEL(03)5770-1573] でご連絡ください。

★JIS 規格票の正誤票が発行された場合は、次の要領でご案内いたします。

当協会発行の月刊誌“標準化ジャーナル”に、正・誤の内容を掲載いたします。

なお、当協会の JIS 予約者の方には、予約されている部門で正誤票が発行された場合、自動的にお送りいたします。

★JIS 規格票のご注文は、普及事業部カスタマーサービス課 [TEL(03)3583-8002 FAX(03)3583-0462] 又は下記の当協会各支部におきましてもご注文を承っておりますので、お申し込みください。

JIS F 7399
船用油タンク非常遮断弁

平成 14 年 5 月 31 日 第 1 刷発行

編集兼
発行人 坂倉省吾

発行所

財団法人 日本規格協会
〒107-8440 東京都港区赤坂 4 丁目 1-24

札幌支部	〒060-0003	札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 札幌大同生命ビル内 TEL (011)261-0045 FAX (011)221-4020 振替：02760-7-4351
東北支部	〒980-0014	仙台市青葉区本町 3 丁目 5-22 宮城県管工事会館内 TEL (022)227-8336(代表) FAX (022)266-0905 振替：02200-4-8166
名古屋支部	〒460-0008	名古屋市中区栄 2 丁目 6-1 白川ビル別館内 TEL (052)221-8316(代表) FAX (052)203-4806 振替：00800-2-23283
関西支部	〒541-0053	大阪市中央区本町 3 丁目 4-10 本町野村ビル内 TEL (06)6261-8086(代表) FAX (06)6261-9114 振替：00910-2-2636
広島支部	〒730-0011	広島市中区基町 5-44 広島商工会議所ビル内 TEL (082)221-7023,7035,7036 FAX (082)223-7568 振替：01340-9-9479
四国支部	〒760-0023	高松市寿町 2 丁目 2-10 住友生命高松寿町ビル内 TEL (087)821-7851 FAX (087)821-3261 振替：01680-2-3359
福岡支部	〒812-0025	福岡市博多区店屋町 1-31 東京生命福岡ビル内 TEL (092)282-9080 FAX (092)282-9118 振替：01790-5-21632

Printed in Japan

NH

JAPANESE INDUSTRIAL STANDARD

Ship building — Oil tank emergency shut-off valves

JIS F 7399 : 2002

Revised 2002-05-07

Investigated by
Japanese Industrial Standards Committee

Published by
Japanese Standards Association

定価：本体 1,200 円（税別）

ICS 47.020.30

Reference number : JIS F 7399:2002(J)